

上品な女性、品のある男性

Article written by a FELICIMME



【目次】

- 1 : なぜ、品のある人が好まれるのか？
- 2 : 品のある人とは？
- 3 : 上品な女性、品のある男性とは？
- 4 : 品を身につける為に心がける事。
- 5 : 品があって身につけたものが光る。生き方が光る。



1：なぜ、品のある人が好まれるのか？

あなたは、品のある人に見られたいと思いますか？

8割以上の方が「YES」と答えるのではないのでしょうか。

では、何故そう思うのでしょうか？立派な人に見えるから？格が高く見えるから？素敵に見えるから？色々な意見が出るとは思いますが、品がある人が好まれるのは、それだけで人に $+ \alpha$ の魅力が備わるからです。その人に感じられる気高さや強さから生まれる価値です。

その価値を感じ取ると、人は幸せな気分にならせてもらえます。

穏やかな気分だったり、しっとりした安定感だったり、人によって感じ方は違いますが、「いいな」と思う気持ちには変わりありません。ですから、品のある人が好まれるのです。

これから、その価値は具体的にどのようなものなのか？

どうしたら身につけられるのか？紐解いて行きましょう。

2：品のある人とは？

品のある人というのは、自分の行動や生き方に信念を持っている人です。確固たる自信があるので、流行に流されたり、周りに振り回されたりすることはありません。正しい道を正しく生きているのです。



その軸があってこそ、自分を飾らず素直に人と接する事が出来、弱い人を労り助ける事が出来、他人に優しく思いやりのある行動が出来るのです。もちろん、必要なときはしっかり意見が言える聡明さも持っています。

人の弱さ・未熟さを受け入れる力強さや、動物や自然の美しさに心動かされる豊かさは、知識だけでは身につけることができません。そこに経験や心の成長があって初めて少しずつ生まれ育つのです。

そうした毎日の小さな経験や成長から生み出された「余裕」が心に育つ事で、その人が存在するだけで、場が華やかになり、和やかな雰囲気にも包まれるのです。

小さい頃からたっぷりの愛情の中で育った人は、心の豊かさや優しさが大きく育っているので、知らず知らずのうちに身につけている事が多いのでしょう。

「じゃあ、私には無理ね...」と思わないでください。

少しでも自分を成長させ、日々、心豊かに過ごし、人の為になる努力をコツコツと続けている人と、投げやりな人生を送っている人では、人としての品格が格段に違って来ます。

25歳で品が備わっている人を羨ましいと思うのであれば、自分も今から25年かけて“自分の力”で自分を愛し、花を咲かせればいいのです。ゆっくりゆっくり花が咲くので、ゆっくりと自分を愛してくれる人が増えていきます。

3：上品な女性、品のある男性とは？

では、上品な女性とは具体的にどんな人でしょう？例えば、以下のような人が挙げられるのではないのでしょうか？



◆毎日を丁寧にきちんと生きている人

食事をきちんと自分で作り、一人でのときでも茶葉からきちんとお茶を入れて

丁寧に生活しています。睡眠時間や起床時間を決めており、毎日を生き生きと生きています。きちんとアイロン掛けされたハンカチを常に持って、バックの中も整頓されています。全てにおいて、自分を大事にしているので、そこはかたないエレガントさが内側から出て来るのです。

また、約束を守り、時間を守ります。人との約束を守るという事は、自分との約束を守るという事です。自分との約束が出来ない人間は、往々にして言い訳ばかりしているものです。言い訳を言う人間を上品と思う人は誰もいないでしょう。

◆笑顔が素敵な人

笑顔が素敵な人は、心に余裕があります。

特別なブランドの洋服やバックを身につけなくても、笑顔から清潔感や誠実さが溢れ出て来るものです。

いつも笑顔の人の側に寄り添いたくなるのも、一緒にいると安心出来るからです。

不機嫌な顔を知られてしまうと、不機嫌にさせないように周りがヒヤヒヤしながら接して来るので、上品とはかけ離れていきます。



◆感謝の気持ちを常に持っている人

人への感謝の気持ちを素直に表現出来ることで、言葉遣いも自然と美しく丁寧になります。周りに優しく思いやりがあるので、人の悪口も出て来ません。相手を否定しないという事は、寄り添える強さ、しなやかさがあるのです。そんな強さがあるので感情を表に垂れ流しする事が無くなるのです。

感謝の気持ちがあれば、傲慢になる事無く、妬みやひがみは無くなり、むしろ謙虚になります。苦手な人がいても、その人のいい面を見つけられる事が出来るのです。

◆姿勢が良く、身綺麗な人

姿勢が良い人は、凛とした雰囲気が出て来ます。自分の生き方を確立し、必要な時には強くものが言える芯のある人です。そんな人は、食べ方も綺麗でしょう。だらしなく口を開けっ放しにしたり、足を組んだりはしません。立ち居振る舞いが美しいのです。

人間は、外見で判断されがちです。美人は、その容姿だけで注目されますが、美しい容姿に頼り過ぎて何も手入れしなければ、魅力も半減し、年を重ねた時に如実に現れて来ます。清潔感のある服装や髪や肌のお手入れは、女性に生まれたのであれば、きちんとしましょう。靴のかかところがすり減ったら補修をし、磨く事も忘れないでください。

TPOをわきまえたお洒落が知性を感じさせます。

次に、品のある男性とは、どんな男性
でしょう？同じ人間なので、ほぼ女性と
共通ですが、男性特有の特徴を挙げると
すれば、例えば以下のようなものがある
でしょう。



■決断力と責任感を兼ね備えつつも威圧的でない人

威圧的な男性は、心に余裕が無い証拠です。

自分の弱さを人に見せたくない為に、人を質問攻めにしたり、傲慢な態度を取って威圧的になってしまいます。真の品のある男性は、大きく人を包み込む強さがあります。また、優柔不断でなく、何事も自分で決める事が出来、決めた事に責任を持てます。

■立場の弱い人、見ず知らずの人にも礼儀正しい人

結婚したい男性の上位に「優しい人・思いやりのある人」が来るのは、人間として一緒にいたい要素だからです。人間として当たり前な行為と分かっているけど、立場の弱い人や恵まれない人にも優しく思いやりある行動は出来ているのでしょうか？

例えば、会社の掃除をしてくれる人やレジ打ちの人に「ありがとうございます。」「おはようございます。」が言えていますか？忙しいからといって無言で見過ごしては、余裕の無い、格落ちの男性となってしまいます。

年齢や性別、職場の上下関係や職種に関係なく、どんな人にも礼儀正しく接する事が出来る男性は、人としての格が違います。人をバカにしたり、軽んじた対応をする男性は、卑しい大人とみなされます。

■人を引っ張っていく力があり、強さと懐の深さ、安心感がある人

人を引っ張って行く力とは、決して女性を守るだけではありません。部下に対して、引っ張る力も含まれるのです。「よく出来ているね。」「君が頑張っているのは、皆が認めているよ。」「流石だね。細かい所まで丁寧で安心して見ていられるよ。」などと部下を褒めた事がありますか？

また、褒めるだけでなく、適切なアドバイスも大切です。仕事のやり方に迷っていたり、自信を失っている部下に対して「ここをこうするともっと良くなるから、直してみるといいよ。」

「私にもそんな時があったよ。大丈夫！もう少ししたら抜け出せる！」
などと相手を認め、大きな懐で見守り、成長を陰で支える事が出来る
男性は、皆が憧れる存在となるでしょう。

4：品を身につける為に心がける事

上記の通り、品は、知識を詰め込んで1日
で身に付くものではありません。毎日を
丁寧に生き、自分を愛してあげる事が大
切なのですが、そこに『謙虚さ』が必要
になります。

謙虚さは文字で見ると大切なものと分か
るのですが、実行するとなると、なかな
か難しいものです。新しい事を学んだり、
自分に無いものを認めたりするのは、素直さと謙虚さが必要になります。



人は、歳を重ねるごとに変なプライドが邪魔をするものです。

「あの人に出来て、私に出来ないなんて！」 「仕事の能力がないと思われたくない！」 というのも、プライドです。本来ならば、簡単に手に入るものが、プライドが邪魔をして手に入らなくなるのは、往々にしてあります。

謙虚な人というのは、人から愛されやすいものです。自分をおごらず、出しゃばることなく、結果を残す事が出来る人は、尊敬に値します。また、謙虚に接する事で人から好感を持ってもらい易く、多くの協力を得られます。また、素直に実践してみようという気持ちから、人から早く学び吸収出来るのです。

品の良い人は、謙虚です。自分を大きく見せる事も無く、自然体。立派な事をしていても、サラリとして自慢する事ありません。事実として報告する程度なのです。このように、謙虚さを心がける事が、品を身につける最短・最善の道です。

5: 品があって身につけたものが光る。生き方が光る。

学生生活や社会人生活で勉強して学んだ事は、往々にして身に付いているでしょう。

経験で学んだ事も身に付いていると思います。ただ、それを実生活に生かして、自身の魅力になっている人はどれ位いるのでしょうか？



高い学歴や社会的に高い地位と言われる職業についていても、性格が悪いと人から嫌われます。一生懸命勉強して人より高い知識を持っていても、嫌われて相手にしてもらえないのならば、その知識は日の目を見ない事が多いものです。知識だけでは、仮に人の為になったとしても、その人自身の魅力の一部にはなれないのです。

下品な言葉を使ったり、人を見下したようなものの言い方をしたりする人に品性は感じられません。むしろ嫌われる一方でしょう。人は人に必要とされる事、人を愛し愛される事で、幸せを感じ自身の存在意義を感じます。

嫌われてしまっただけでは、幸せを感じる事も出来ず、内側に身につけたものも光りません。親の愛情から生まれた品、知識や経験から身につけた品、これらが合わさってその人の品格が生まれ、その人の生き方として光るのです。

これを読んでいる皆様には、是非、今ある自分を大事にし、日々の暮らしの中で心を磨き、より自身を高め続ける事で、生き生きとした人生を歩んで欲しいと思います。そうして、幸せな未来を皆で繋いでいくことができれば素晴らしいと思います。

FELICIMME

